

家庭

家庭科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

家庭科の特質に応じた「**主体的な学び**」とは、題材を通して見通しをもち、日常生活の課題の発見や解決に取り組んだり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組んだり、実践を振り返って新たな課題を見付け、主体的に取り組んだりする態度を育む学び

「**対話的な学び**」とは、児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりするなど、自らの考えを広げ深める学び

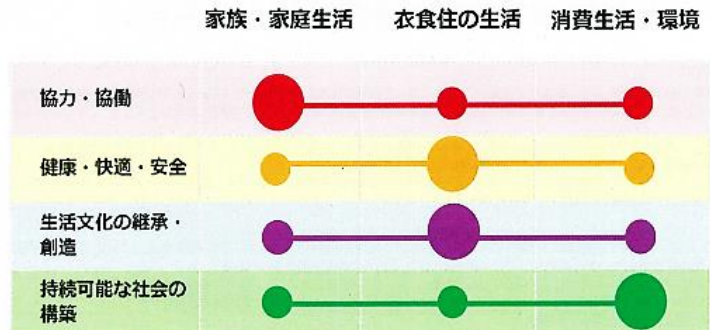
「**深い学び**」とは、児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学び

このような学びを通して、**日常生活に必要な事実的な知識が概念化されて質的に高まったり、技能の定着**が図られたりします。また、このような学びの中で「主体的な学び」や「対話的な学び」を充実させることによって、家庭科が目指す「思考力、判断力、表現力等」も豊かなものとなり、生活をよりよくしようと工夫する**資質・能力**が育まれます。

2 「生活の営みに係る見方・考え方」について

家庭科が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示したものです。

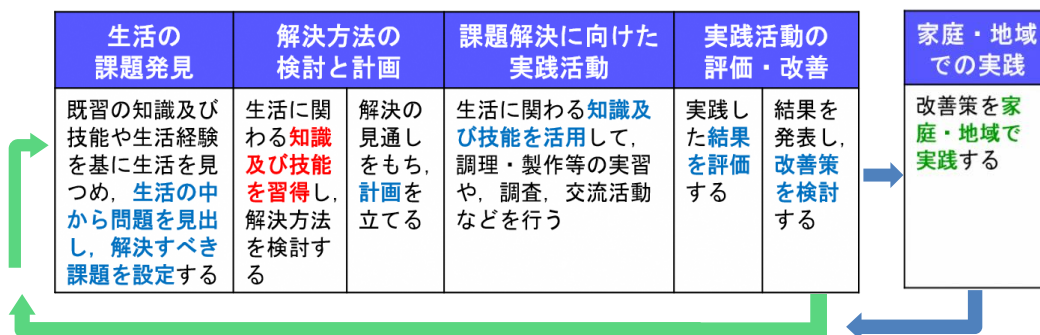
自立し共に生きる生活の創造



取り上げる内容や題材構成等により、どの視点を重視するのかは異なる

3 「家庭科の学習過程」について

一連の学習過程を通して、児童が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようにします。また、2学年間を見通して、このような学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養うことが大切です。



家庭科における学習評価のポイント

1 家庭科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】	【新】
評価の観点	評価の観点
家庭生活への関心・意欲・態度	知識・技能
生活を創意工夫する能力	思考・判断・表現
生活の技能	主体的に学習に取り組む態度
家庭生活についての知識・理解	

【小学校家庭 評価の観点及びその趣旨】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

2 「知識・技能」の評価

- 「知識・技能」については、基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を、「～を（～について）理解している」、「～を（～について）理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成します。

※「A家族・家庭生活」の（1）については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成します。

3 「思考・判断・表現」の評価

- 「思考・判断・表現」については、教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価することになります。

具体的には、

- ①日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見いだして課題を設定している」
- ②課題解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考える力については、その文末を「～について（実践に向けた計画を）考え、工夫している」
- ③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」
- ④計画や実践について評価・改善する際に、考えたことを分かりやすく表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している」

として、評価規準を設定することができます。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的には、当該指導項目で扱う指導事項ア及びイと教科の目標、評価の観点及びその趣旨を踏まえて作成します。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととします。

具体的には、

- ①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面）
 - ②自らの学習の調整（その中で自らの学習を調整しようとする側面）
 - ③実践しようとする態度
- を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり（①）、振り返って改善したり（②）して、生活を工夫し、実践しようとしている（③）」として、評価規準を作成します。